

吹雪による災害

- 吹雪・暴風雪は、視程障害や吹きだまりを引き起こし、深刻な交通障害などの原因に。
- 2013年3月2日（北海道・道東地方）、2021年1月19日（宮城県大崎市）など、これまで大規模な吹雪事故が度々発生。
- 低温、降雪、その後の強風は強い吹雪が起きやすいパターン。地形にも注意。

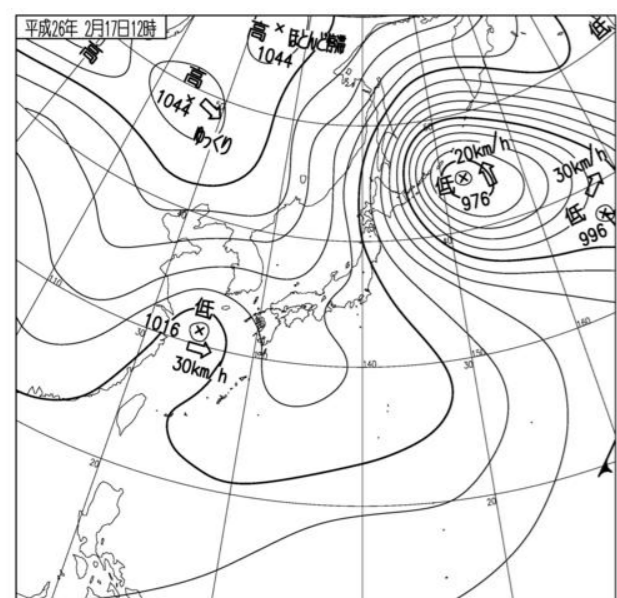
吹雪・暴風雪による災害

- 雪がある時に強い風が吹くと吹雪が発生します。
- 風速20m/sを超えるような暴風に吹雪を伴う場合は暴風雪と呼んだりします。
- 吹雪、暴風雪は視程障害や吹きだまりなどを引き起こし、冬の時期の大きな問題となります。

北海道での事例

- 2013年3月2日、北海道内各地で猛吹雪による激甚災害が発生しました（犠牲者9名）。
- 道東地方（中標津町など）では、その翌年以降も暴風雪が度々発生し、度重なるライフラインの寸断が生じました。

2014年2月14日から19日にかけて、発達した低気圧が千島近海で停滞し、道東地方で数日にわたる暴風雪が発生しました。



2014年2月17日の天気図（気象庁）

冬期前の様子
(2013年11月)



2014年2月21日の吹きだまり
(中標津町西竹。除雪後)



2014年2月21日の吹きだまり
(中標津町養老牛)

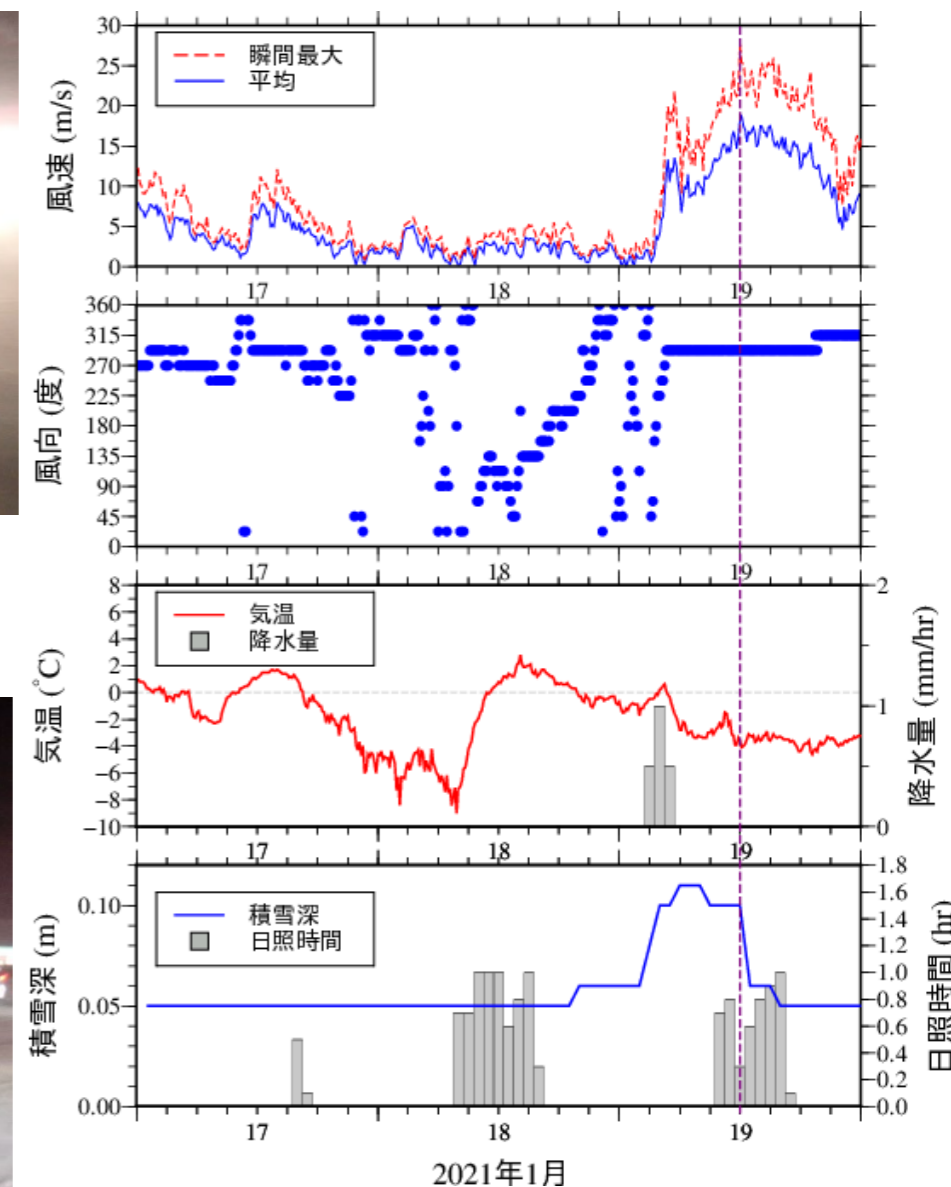
宮城県大崎市での事例

- 2021年1月19日、宮城県大崎市古川の東北自動車道下り線で、吹雪による視程障害のために約140台の車両が関係する多重衝突事故が発生しました。
- 気象庁の観測データ（アメダス古川）では、当日明け方に低温下でまとまった降水（降雪）があり、その後正午にかけて風が著しく増加して強い吹雪の発生条件（8~10 m/s程度）を大きく超過、正午に最大瞬間値で27.8 m/sに達しています。
- 正午には積雪深が急激に減少し、降り積もった新雪がすべて風によって飛ばされて吹雪となった様子が伺えます。
- 低温、積雪、降雪、強風といった、強い吹雪が起きやすいパターンに注意が必要です。
- 特にこの地域は冬期の西風の吹き込みを受けやすい地形となっています。過去に吹雪災害が起きたなど、吹雪が起きやすい地形となっているかも重要です。

吹雪、吹きだまり状況



高速道路閉鎖による
周辺道路の混雑



気象状況の時間変化（アメダス古川）。
縦の点線は1月19日12時（正午）。

